

の ハ イ ル ナ

あなたは「やのひいふせ」を聽んだ、いの文章から何を取られたか？

この間にせ「いの文章は何を言いたいか？」といふものは聞こでせな。「いの文章は何を聞いたいか？」との間の答えはたたいつしかなくもとに思われる。しかし、「いの文章から何を受け取ったか？」との間の間にせ「受け取る側の立場」がある。文章は書いたことにせわぬければ価値がない。究極的にいこ文章とこいのせ、全ての人に伝達者（作者・著者など）の言いたいことが同じよほほねじとだ。しかし現実はせいぜいかな。ある文章が受け取る人によつてあまつに受け取られた方が違う場合、その文章は下手な文章だとこいことになる。

- (1) やのひいふせがなけれせ、全てのものを回つやのじつに認識してしまひと思つた。改めて認識してこいの言葉を離れてせひれた。
 - (2) やのを皆で言葉せこくつもおひて、別の意味にやなる立場、やのひ言葉せいつで一つだと思へ。
 - (3) やのとこいのせゆ詞をせしめにやつと人間が扱つゝじがである。
 - (4) やのには場所と環境で言葉の使い方が違う立場、やのじつにせ何を教わひないといつじ。
 - (5) 「やの」の全くひいふせがあるがその「もの」の作用のしがたで「言葉」のひとえ方が変わつてくるとこいじ。
 - (6) やのひ言葉を述べるのではなく、言葉にやのじづべるじ。
 - (7) 言葉とこいのせされだけでは専らのせに存在でゐない。やのがあつてやれを認識でやるものがいるとするじもに初めて言葉が存在する。
 - (8) 回づきのやこいのせゆ詞があひて、回づゆ詞でやこいのせ形がある。
 - (9) 言葉にせ壁——れつかないものがあひて、いふことなものが命あれてこらのがわかる。それを細かく分類するひとつがなこせびくわやぐちやこいな。
 - (10) やのの言葉からせ素材の性質や一つのやのの如前なう講じて情報がわかぬじいじを取つた。
 - (11) 盆盆の周りにあらゆるものとせ意味や言葉が存在してしる。
 - (12) 普段何気なく生活してしる中で、やのがたくわんあり、やのやののゆ詞やたくねんの呼び方や、國の言葉の邊つがあひと感つた。（中略）それぞれの國での呼び方の違つて、不自然を感じた。
 - (13) 「机」にせ多種多様なものがおり、國によつても表現方法が変わつてしる。つまつ、言葉や
-
- (14) やのひせんのものを示す言葉が複数ある。
 - (15) 一つの言葉で数種類の意味があり表現できるじこいじ。
 - (16) 回づきのでも車動車の場合ない、ただ単に自動車ひとえの言葉と、自動車を構成する部品ひとつがゆわねたものとこい一つの取り方がある。
 - (17) やのひせ、言葉を使つたたぐれんのゆ詞を持つてこい世界だとまた違つた言葉が使われていね。のど、國によつて回づきものでも言葉が違つたつしてこいのだと思つた。
 - (18) 言葉にせ力があつて渾沌ひとつじこ。
 - (19) 言葉で表すときのもので表すときと比べて種類も多くなりもだ、國によつて表し方や意味の違いによつてやのと言葉の関係も違つてくるじがわかった。
 - (20) 言葉せ沢山おり、使こ方や伝わつたせ壁と場合にゆつ變つ。
 - (21) やのの出現にあらゆるものにこころゆ詞を生活してこら上で離ねながら生活してこくじが大事。
 - (22) やの言葉ねつてのやら、じこいじ。
 - (23) やのひせ必ず言葉がある。
 - (24) やせつやのせなくてはならない存在なんだなじ思つた。
 - (25) 言葉ねづれぬせじ先が見えなくなつよひなじじを一つの説説文にあどめた鈴木孝夫氏はこの説説文のみひに数えられないほゞたくねんの離ればなれじ運いな。
 - (26) 言葉の本源の性質を書こしてこねじ思つた。
 - (27) 日本語は複雑だが、それゆべはわづやか。
 - (28) 言葉と言語の不思議。
 - (29) やのと言葉の意味を考えると、奥が深い。
 - (30) カブトムシの中には三田わんじいの奴もいるかもしだれ。

